

(W85)営業活動に役立つ財務の知識 【4月・午前】

第2回 2026年4月17日（金） 9:30-12:30

講 師

財務リスク研究所 代表取締役

代表 **横山 悟一**

2023年度中小企業者等研修 3時間×4回	
第1回	2026年4月10日（金） 9:30-12:30
第2回	2026年4月17日（金） 9:30-12:30
第3回	2026年4月24日（金） 9:30-12:30
第4回	2026年4月28日（火） 9:30-12:30

中小企業基盤整備機構人材支援部

中小企業大学校web校

03-5470-1823

営業に役立つ財務の知識

営業リーダーに必要な貸借対照表（BS）の知識

講師 横山 悟一
(財務リスク研究所 代表)

<https://www.zaimurisk.com/>

与信管理の重要性

「売掛金のリスク」

Q. 売上代金は必ず払ってもらえる？

- ・ 民間企業が取引先なら倒産の可能性がある
- ・ 商売は上手くいかないことの方が多い→最悪の場合、倒産・・・
- ・ 未回収の状態にある売上代金を「売掛金」と呼ぶ→回収するまでに時間がかかる・・・
- ・ 未来は何が起こるかわからない以上、売掛金には「回収できなくなる」というリスクがある

「売掛金を回収できない場合のダメージは？」

Q. 粗利率 10%で商売をしている会社が売掛金 100 万円を回収できなくなりました。
この損害を穴埋めするためには、新規売上は、いくら必要でしょうか？

A. 1,000 万円の新規売上が必要

100 万円の損を穴埋めするには、100 万円の利益が必要

100 万円÷粗利率 10%=1000 万円の売上が必要

もし 1000 万円の焦げ付きなら？ →1 億円の売上が必要・・・

「売上代金が回収できなければ？」

- ・ 社員の給料
 - ・ 年金などの社会保険料
 - ・ 仕入先への支払
 - ・ 事務所の家賃
 - ・ 借金返済
- } 支払えない！

この状況が続けば？ 自社が倒産・・・

営業パーソンの鉄則：「売上代金を回収するまで、取引は終わらない」

「与信管理とは」

- ・ 売掛金を持っているということは、取引先にお金を貸しているようなもの
- ・ 今日初めて知り合った人に、お金を貸せますか？
- ・ 信頼できる相手でなければ、怖くて貸せないはず
- ・ 商売も同じ。

→売上代金を後払いするということは、取引先を信用し、資金を貸し与えること

→この与信を『管理』する業務が、与信管理なのです

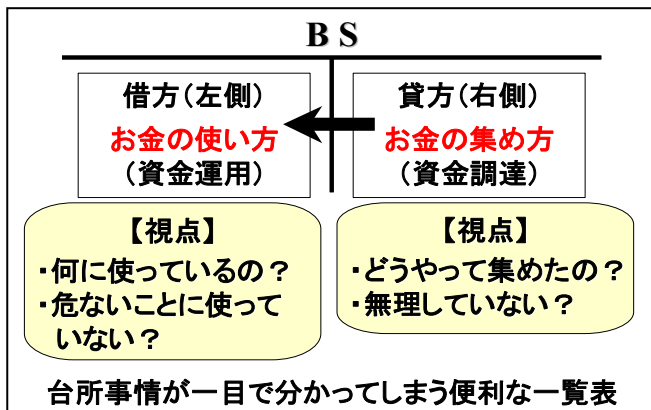
(1) 貸借対照表とは

一時点における財政状態（資産・負債・資本の状態）を表す書類であり、B/S（Balance Sheet）とも呼ばれています。

そして、貸借対照表は左側（借方）に「資産」、右側（貸方）には「負債」と「純資産」を記載することで、資金のバランスを示しています。

また、貸借対照表を見れば、企業の資金調達手段や資金使途を知ることができます。

(2) 借方と貸方が示す意味（お財布）



例) A社は健全企業？

PL	BSをしてみると？																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: right;">売上高</td><td style="text-align: left;">2400万円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">経費</td><td style="text-align: left;">1200万円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">利益</td><td style="text-align: left;">1200万円</td></tr> </table>	売上高	2400万円	経費	1200万円	利益	1200万円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><th colspan="2" style="text-align: center;">BS</th></tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: right;">現金</td><td style="text-align: left;">0万円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">売掛金</td><td style="text-align: left;">2400万円</td></tr> </table> </td><td style="width: 50%; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: right;">資本金</td><td style="text-align: left;">1200万円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">利益</td><td style="text-align: left;">1200万円</td></tr> </table> </td></tr> </table>	BS		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: right;">現金</td><td style="text-align: left;">0万円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">売掛金</td><td style="text-align: left;">2400万円</td></tr> </table>	現金	0万円	売掛金	2400万円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: right;">資本金</td><td style="text-align: left;">1200万円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">利益</td><td style="text-align: left;">1200万円</td></tr> </table>	資本金	1200万円	利益	1200万円
売上高	2400万円																		
経費	1200万円																		
利益	1200万円																		
BS																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: right;">現金</td><td style="text-align: left;">0万円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">売掛金</td><td style="text-align: left;">2400万円</td></tr> </table>	現金	0万円	売掛金	2400万円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: right;">資本金</td><td style="text-align: left;">1200万円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">利益</td><td style="text-align: left;">1200万円</td></tr> </table>	資本金	1200万円	利益	1200万円										
現金	0万円																		
売掛金	2400万円																		
資本金	1200万円																		
利益	1200万円																		
PLを見れば収益性の高さがわかる	1年間資本金を食いつぶして 存続していたに過ぎない...																		
「BSだから、わかること」 ・A社の売掛金サイトは年1回→もし入金が遅れたら？ ・借入金を調達できなければ？																			

「あなたはどちらにお金を貸しますか？」

Aさん

借方(左側)	貸方(右側)
<b style="color: brown;">国債1000万	<b style="color: brown;">これまで蓄えたお金 1000万

Bさん

借方(左側)	貸方(右側)
<b style="color: blue;">商品先物 1000万	<b style="color: blue;">これまで蓄えたお金 0 消費者金融 1000万

BSの基本構造は「整理棚」

資 産	負 債
流動資産	流動負債
固定資産	固定負債
繰延資産	純資産(自己資本)

「らくらく指数」

資金繰り状況が「楽な会社」「苦しい会社」に分けて下さい

A 社

流動資産	400	流動負債	0
固定資産	600	固定負債	600
繰延資産	0	純資産	400
資産合計	1000	負債・純資産合計	1000

B 社

流動資産	400	流動負債	1600
固定資産	1600	固定負債	0
繰延資産	0	純資産	400
資産合計	2000	負債・純資産合計	2000

「らくらく指数」

①総資産比＝(各区分)÷資産(総資産)

A 社

流動資産	40%	流動負債	0%
固定資産	60%	固定負債	60%
繰延資産	0%	純資産	40%
資産合計	100%	負債・純資産合計	100%

B 社

流動資産	20%	流動負債	80%
固定資産	80%	固定負債	0%
繰延資産	0%	純資産	20%
資産合計	100%	負債・純資産合計	100%

②判定

BS区分	資金繰りへの影響	
流 動 資 産	1年以内にお金に換わる→資金繰りは楽	楽
固 定 資 産	1年を超えてお金に換わる→資金繰りは苦しい	苦
繰 延 資 産	1年を超えて経費になる→資金繰りは苦しい	苦
流 動 負 債	1年以内に返済する→資金繰りは苦しい	苦
固 定 負 債	1年を超えて返済する→資金繰りは楽	楽
純 資 産	返済不要→資金的にはかなり楽	楽

実際に書き込んで
みましょう

練習問題 1

A1 社 貸 借 対 照 表 XX年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
流 動 資 産	100,000	流 動 負 債	0
現金預金	10,000		
売掛金	65,000		
棚卸資産	25,000		
固 定 資 産	0	固 定 負 債	40,000
		長期借入金	40,000
		負債合計	40,000
		株 主 資 本	
		資本金	10,000
		繰越利益剰余金	50,000
		純資産合計	60,000
資産合計	100,000	負債・純資産合計	100,000

A2 社 貸 借 対 照 表 XX年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
流 動 資 産	100,000	流 動 負 債	85,000
現金預金	35,000	買掛金	35,000
売掛金	5,000	短期借入金	50,000
棚卸資産	60,000		
固 定 資 産	0	固 定 負 債	0
		負債合計	85,000
		株 主 資 本	
		資本金	10,000
		繰越利益剰余金	5,000
		純資産合計	15,000
資産合計	100,000	負債・純資産の部合計	100,000

解答:「A2社」が苦しい

A1社

科 目	金額(千円)
株主資本	
資本金	10,000
繰越利益剰余金	50,000
純資産合計	60,000
負債・純資産合計	100,000

「A1純資産:60%」

A2社

科 目	金額(千円)
株主資本	
資本金	10,000
繰越利益剰余金	5,000
純資産合計	15,000
負債・純資産の部合計	100,000

「A2純資産:15%」

理想:「自己資本比率(純資産比率)」=30%以上

簡易な計算式=純資産÷負債・純資産合計(総資産)

正確な計算式=自己資本÷負債・純資産合計(総資産)

* 自己資本=株主資本+評価・換算差額等

繰越利益剰余金=過去からの経営状況を示す

A1社

科 目	金額(千円)
株主資本	
資本金	10,000
繰越利益剰余金	50,000
純資産合計	60,000
負債・純資産合計	100,000

=利益の貯金箱は
「50,000千円」

A2社

科 目	金額(千円)
株主資本	
資本金	10,000
繰越利益剰余金	5,000
純資産合計	15,000
負債・純資産の部合計	100,000

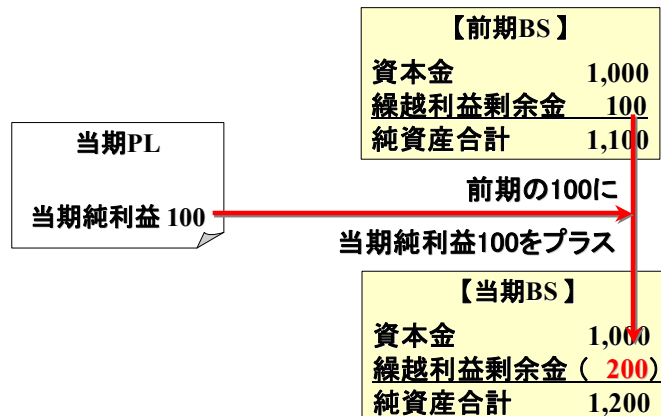
=利益の貯金箱は
「5,000千円」

「経営には「波」があるからこそ、貯金が必要」

悪い時:給料を払うため

良い時:投資するため(更なる成長・ライバルに差をつける)

「繰越利益剰余金」=「当期純利益」の貯金箱



なぜ貯金(内部留保)が必要?

- 不況に襲われても、潰れないようにするため
- ・自分の思うようにならず、何が起こるのがわからないそれが経営
- ・だからこそ、税引前当期純利益率は10%以上必要となる

事例)任天堂

- ・現預金+有価証券+投資有価証券>年商
- ・ゲーム業界は景気の波が激しい
- ヒット商品が出なくても耐えられるよう現金を潤沢に持つ

なぜ貯金(内部留保)が必要？

●すべてのものは必ず変わる(諸行無常)

「諸行無常」=この世の万物は常に変化する

「盛者必衰の理」「奢れる者久しからず」

「猛(たけ)き者も遂には滅びぬ」(平家物語)

→「良い状態」がいつまでも続くことはない

→調子の良いときほど、「変わる」と思えない

純資産=(原則)自由に使えるお金

A1社

科 目	金額(千円)
株主資本	
資本金	10,000
繰越利益剰余金	50,000
純資産合計	60,000
負債・純資産合計	100,000

=自由に使えるお金
60,000千円

A2社

科 目	金額(千円)
株主資本	
資本金	10,000
繰越利益剰余金	5,000
純資産合計	15,000
負債・純資産の部合計	100,000

=自由に使えるお金
15,000千円

A2社

科 目	金額(千円)
流動資産	100,000
現金預金	35,000
売掛金	5,000
棚卸資産	60,000

科 目	金額(千円)
株主資本	
資本金	10,000
繰越利益剰余金	5,000
純資産合計	15,000
負債・純資産の部合計	100,000

「現金預金」35,000千円もある

自由に使えるお金
15,000千円

(他人のカネ)

科 目	金額(千円)
流動負債	85,000
買掛金	35,000
短期借入金	50,000

「A2社」はキャッシュが多いが、負債も多い

売掛金と在庫のバランス

同じ「楽」でも、お金の使い方が変わる

A1社

科 目	金額(千円)
流動資産	100,000
現金預金	10,000
売掛金	65,000
棚卸資産	25,000

A2社

科 目	金額(千円)
流動資産	100,000
現金預金	35,000
売掛金	5,000
棚卸資産	60,000

A1社

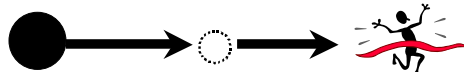
(売掛金>在庫)

棚卸資産 → 売掛金 → 現金預金



A2社

(売掛金<在庫)



練習問題 2

A7 社 貸借対照表 平成XX年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
流動資産	40,000	流動負債	30,000
現金預金	10,000	買掛金	20,000
売掛金	15,000	短期借入金	10,000
棚卸資産	15,000		
固定資産	60,000	固定負債	50,000
有形固定資産	50,000	長期借入金	50,000
機械装置	50,000		
投資等資産	10,000	負債合計	80,000
投資有価証券	10,000	株主資本	
		資本金	30,000
		繰越利益剰余金	△ 10,000
		純資産合計	20,000
資産合計	100,000	負債・純資産合計	100,000

A8 社 貸借対照表 平成XX年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
流動資産	60,000	流動負債	110,000
現金預金	29,000	買掛金	30,000
売掛金	10,000	短期借入金	80,000
棚卸資産	1,000		
有価証券	20,000		
固定資産	40,000	固定負債	10,000
有形固定資産	10,000	長期借入金	10,000
機械装置	10,000		
投資等資産	30,000	負債合計	120,000
長期貸付金	30,000	株主資本	
		資本金	30,000
		繰越利益剰余金	△ 50,000
		純資産合計	△ 20,000
資産合計	100,000	負債・純資産の部合計	100,000

【債務超過でも問題のないケース】

- ①節税対策（事業継承、M&A）→事業継承の場合、業績回復が大前提
- ②役員借入金が大きい

練習問題 3

A3 社 貸借対照表 XX年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
流動資産	100,000	流動負債	0
現金預金	70,000		
売掛金	30,000		
固定資産	0	固定負債	70,000
		長期借入金	70,000
		負債合計	70,000
		株主資本	
		資本金	10,000
		繰越利益剰余金	20,000
		純資産合計	30,000
資産合計	100,000	負債・純資産合計	100,000

A4 社 貸借対照表 XX年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
流動資産	100,000	流動負債	70,000
現金預金	2,000	買掛金	70,000
売掛金	98,000		
固定資産	0	固定負債	0
		負債合計	70,000
		株主資本	
		資本金	10,000
		繰越利益剰余金	20,000
		純資産合計	30,000
資産合計	100,000	負債・純資産の部合計	100,000

*売掛金は民間企業に対するもの

らくらく指数で「時間的な意味合い」を覚える！

【左側】 お金に変わるのが「早い」ほど「楽」 ↑ 易 ↑ 短 回収期間 ↓ 難 ↓ 長	流動資産	流動負債	【右側】 支払が「遅い」ほど「楽」 ↑ 易 ↑ 短 返済期間 ↓ 難 ↓ 長
	楽	苦	
	固定資産	固定負債	
	苦	楽	
	繰延資産	純資産	
	苦	楽	

～ らくらく指数 使用上のご注意 ～

- ・ 保有する資産の状況、負債の返済条件によっては、必ずしも安全性が高いとは言えない場合があります。
- ・ らくらく指数はあくまでもバランスシート（BS）の概念に慣れるまでの簡易的な手法であり、BSを表面的にしか見ていない手法です。
- ・ BSが理解できるようになった場合には、直ちに、ご使用をおやめ下さい。

BS「10の指標」

「BS(貸借対照表)を見ると、何がわかる？」

- ・潰れやすいか、潰れにくいかがわかる
- ・BSの視点（最低限のチェックポイント）

- 1) 自己資本（手金） ①～②
- 2) 借金 ③～⑤
- 3) 設備投資 ⑥
- 4) 支払能力 ⑦
- 5) 運転資金 ⑧～⑩

BS

10のチェックポイントを
全てクリアできれば、
潰れにくい会社になる！

Case1) 一緒にチェックしましょう

貸 借 対 照 表

XX年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
流 動 資 産	55,000	流 動 負 債	25,000
現金預金	20,000	買掛金	15,000
売掛金	25,000	短期借入金	10,000
有価証券	5,000		
棚卸資産	5,000		
固 定 資 産	45,000	固 定 負 債	45,000
有形固定資産	10,000	長期借入金	45,000
備品	10,000		
無形固定資産	30,000		
ソフトウェア	30,000	負債合計	70,000
投資等資産	5,000	株 主 資 本	
保証金・敷金	5,000	資本金	10,000
		繰越利益剰余金	20,000
		純資産合計	30,000
資産合計	100,000	負債・純資産合計	100,000

*長期借入金の返済年数9年

	前期	当期
売 上 高	160,000	180,000
当 期 純 利 益	△ 1,000	500
減 価 償 却 費	6,000	5,000
売 掛 金	22,000	25,000
棚 卸 資 産	4,500	5,000
買 掛 金	13,200	15,000

1) 自己資本(手金)の状態

① 自己資本(純資産)比率は30%以上あるか?

株主資本	
資本金	10,000
繰越利益剰余金	20,000
純資産合計	30,000
負債・純資産合計	100,000

30.0%

OK



自己資本(純資産)比率 = 純資産 ÷ (負債・純資産合計)

② 現金預金は「月商1ヶ月」以上あるか?

科目	金額(千円)
流動資産	55,000
現金預金	20,000
売掛金	25,000
有価証券	5,000
棚卸資産	5,000

現金預金月商比 = 現金預金 ÷ 月商(売上高 ÷ 12)

(現金預金20,000) ÷ (売上高180,000 ÷ 12) = 1.3ヶ月

Yes

OK



2) 借金の状態

③ 借入金の月商比が6ヶ月を超えない(設備産業以外)

負債の部	
科目	金額(千円)
流動負債	25,000
買掛金	15,000
短期借入金	10,000
固定負債	45,000
長期借入金	45,000

借入金月商比

= (短期借入金 + 長期借入金 + 社債) ÷ 月商

= (短期10,000 + 長期45,000) ÷ (月商15,000) = 3.7ヶ月

Yes

OK



業界平均値は「経営自己診断システム」を参照

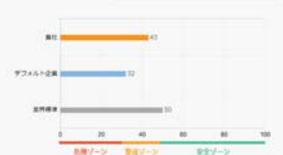
個別指標分析結果 安全性

指標名	判定	得点	貴社	業界標準		指標の考え方
				中央値	上位30%値	
自己資本比率(%)	C	6/10	17.65	9.67	26.64	▲値が高い方がよい
流動比率(%)	D	3/10	115.38	157.31	251.10	▲値が高い方がよい
当座比率(%)	E	2/10	30.77	102.86	163.49	▲値が高い方がよい
固定長期適合率(%)	D	4/10	50.00	倒産リスク分析結果		
減価償却率(%)	E	2/10	5.66	分析の結果、貴社の倒産リスクは警戒ゾーンです。		
手元現金預金比率(%)	E	2/10	2.86			
借入金月商比率(分月)	B	7/10	2.06			
借入金依存度(%)	B	7/10	35.29			
換価率(%)	D	4/10	16.67			
売上高支払利息割当率(%)	C	6/10	0.26			

業界平均

安全性得点は

43点 / 100点



<https://k-sindan.smrj.go.jp/>

④債務償還年数：20年以内（理想は10年以内。設備産業除）

負債の部	
科 目	金額(千円)
流動負債	25,000
買掛金	15,000
短期借入金	10,000
固定負債	45,000
長期借入金	45,000

【PL】
当期純利益 500
減価償却費 5,000

債務償還年数 = $\frac{(\text{短期借入金} + \text{長期借入金} + \text{社債})}{(\text{当期純利益} + \text{減価償却費})}$

$\frac{(\text{短期}10,000 + \text{長期}45,000)}{(\text{当期純利益}500 + \text{減価償却費}5,000)} = 10\text{年}$

Yes



⑤長短バランスは？

負債の部	
科 目	金額(千円)
流動負債	25,000
未払費用	15,000
短期借入金	10,000
固定負債	45,000
長期借入金	45,000

短期借入金 < 長期借入金



3) 設備投資の状態

⑥「固定資産 < 固定負債 + 純資産」となっているか？

固定資産	45,000	固定負債	45,000
有形固定資産	10,000	長期借入金	45,000
備品	10,000		
無形固定資産	30,000		
ソフトウェア	30,000	負債合計	70,000
投資等資産	5,000	株主資本	
保証金・敷金	5,000	資本金	10,000
		繰越利益剰余金	20,000
		純資産合計	30,000

らくらく指数

固定負債	45%
固定資産	45%
純資産	30%

Yes



45,000 (固定資産) < 75,000 (固定負債 + 純資産)

【財務指標】

- ・固定長期適合率 = 固定資産 ÷ (固定負債 + 純資産)
- ・理想: 100%未満

4) 支払能力の状態

⑦「流動資産＞流動負債」となっているか？ →当座（当面）の資金繰り

流動資産	55,000	流動負債	25,000
現金預金	20,000	未払費用	15,000
売掛金	25,000	短期借入金	10,000
有価証券	5,000		
棚卸資産	5,000		

Yes

OK



らくらく指数

流動資産	55%	流動負債	25%
------	-----	------	-----

55,000(流動資産) > 25,000(流動負債)

【財務指標】

・流動比率＝流動資産÷流動負債（目標：100%超）

・当座比率＝当座資産÷流動負債（目標：70%超）

*当座資産＝現金預金＋受取手形＋売掛金＋有価証券

5) 運転資金

⑧運転資金「販売債権回転期間」は変化しないのが理想

	前期	当期
売上高	160,000	180,000
売掛金	22,000	25,000

売上増えれば、売掛金は増える・・・
増え方は正しいのか？

「販売債権回転期間」（売上債権回転期間）

＝販売債権÷月商(売上高÷12) もしくは

＝販売債権÷日商(売上高÷365)

* 販売債権＝受取手形＋売掛金

【前期】

$$\frac{\text{(売掛金22,000)}}{\text{(売上高160,000} \div 365)} = 50 \text{ 日}$$

【当期】

$$\frac{\text{(売掛金25,000)}}{\text{(売上高180,000} \div 365)} = 50 \text{ 日}$$

Yes

OK



【注意】

① ±30日(±1.0ヶ月)以上変化したら、要注意

② 変化幅が小さくても、規模が大きい時は危険！

⑨運転資金「棚卸資産回転期間」は変化しても±30日以内

	前期	当期
売上高	160,000	180,000
棚卸資産	4,500	5,000

売上増えれば、在庫は増える・・・
増え方は正しいのか？

「棚卸資産回転期間」

= 棚卸資産 ÷ 月商 (売上高 ÷ 12) もしくは

= 棚卸資産 ÷ 日商 (売上高 ÷ 365)

* 棚卸資産 = 商品、製品、仕掛品、原材料、貯蔵品など

【前期】

$$\frac{\text{(棚卸資産4,500)}}{\text{(売上高160,000} \div 365)} = 10\text{日}$$

【当期】

$$\frac{\text{(棚卸資産5,000)}}{\text{(売上高180,000} \div 365)} = 10\text{日}$$

Yes

OK



【注意】

① ±30日 (±1.0ヶ月) 以上変化したら、要注意

② 変化幅が小さくても、規模が大きい時は危険！

⑩運転資金「仕入債務回転期間」は変化しないのが理想

	前期	当期
売上高	160,000	180,000
買掛金	13,200	15,000

売上(在庫)増えれば、買掛金は増える・・・
増え方は正しいのか？

「仕入債務回転期間」

= 仕入債務 ÷ 月商 (売上高 ÷ 12) もしくは

= 仕入債務 ÷ 日商 (売上高 ÷ 365)

* 仕入債務 = 支払手形 + 買掛金 + 未払金

【前期】

$$\frac{\text{(買掛金13,200)}}{\text{(売上高160,000} \div 365)} = 30\text{日}$$

【当期】

$$\frac{\text{(買掛金15,000)}}{\text{(売上高180,000} \div 365)} = 30\text{日}$$

Yes

OK



【注意】

① ±30日 (±1.0ヶ月) 以上変化したら、要注意

② 変化幅が小さくても、規模が大きい時は危険！

ビジュアル分析 ～リスクを視覚化～

■グラフ化のポイント

基準期をおく → 指数化

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
棚卸資産	100,000	200,000	250,000	300,000	350,000
指数化	100%	200%	250%	300%	350%



各決算期

基準期(2021年)

売掛金 (販売債権)

売掛金は、この辺にあります

貸借対照表	
流動資産	流動負債
有形固定資産	固定負債
無形固定資産	
投資等資産	自己資本
繰延資産	

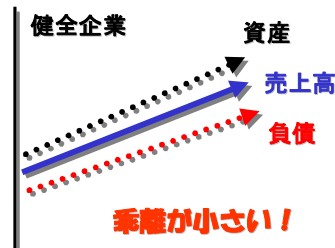
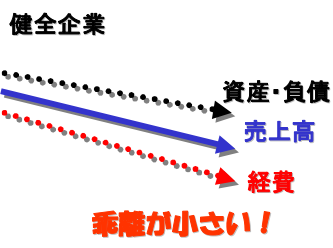
I 流動資産	現金預金 ××
	受取手形 ×××
	売掛金 ×××

【販売債権の定義】

受取手形+売掛金+割引手形+ 裏書手形

◆ポイント

- ・販売したけど、まだ、お金を回収できていない！
- ・客にお金を貸し付けているようなもの

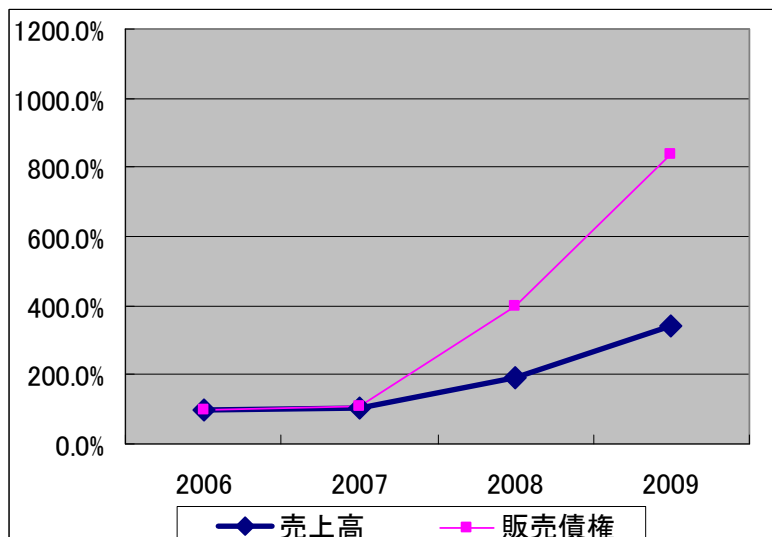


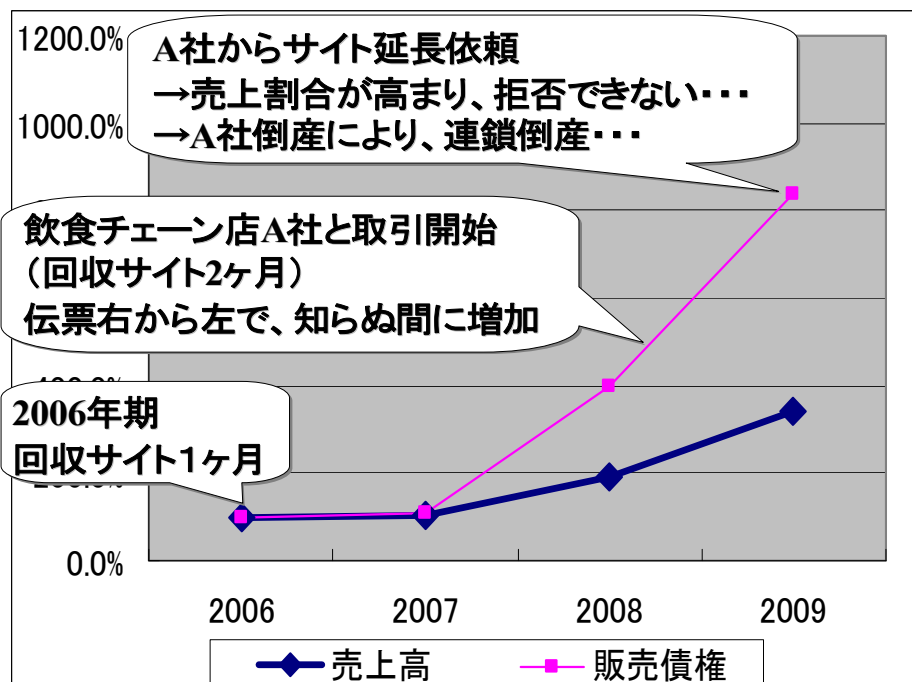
< (株)NA >

(単位:千円)

	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月
売上高	536,720	554,618	1,032,982	1,834,363
販売債権	47,355	51,278	188,310	396,105

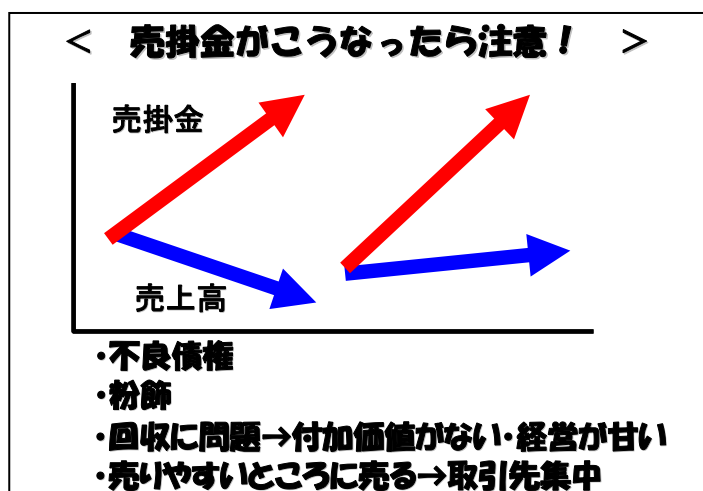
	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月
売上高	100.0%	103.3%	192.5%	341.8%
販売債権	100.0%	108.3%	397.7%	836.5%





「焦げ付きを抱えやすい会社とは？」

- ①与信管理を行っていない
- ②取引先が少なく、1社への売上依存度が高い
 - それだけ新規開拓を怠っている証拠
 - 「地域」「商品」も同様



※本テキストの記載内容の転載・複製等は固くお断り申し上げます。